



動物介在教育活動における動物種別の 「ふれあい」効果の検討について

帝京科学大学 動物介在システム研究室



○花園美樹・田村麗・村木佑実・小檜山祐介・佐々木隆馬・田邊かえで
横井恵・溝端真也・山崎郁・勝又茂久・手塚和貴・花園誠

これから動物介在教育活動のプログラム開発に関する試み—特に「ふれあい」における動物種別の効果について—を発表します。帝京科学大学 アニマルサイエンス学科の田村麗です。よろしくお願ひします。

帝京科学大学アニマルサイエンス学科

学科の特色を活かし、教職員・学生が協力して
様々な地域交流活動を行なっている

動物介在教育

主に学童を対象とした、動物ふれあい教室を展開させ
理科教育・情操教育を提供している

A小学校2年生

教育支援交流

帝京科学大学

<プログラムの内容>

- ★動物園遠足でのスポットガイド、
- ★小動物の貸し出しと、飼育補助
- ★大学遠足の受け入れ

3年目





A小学校2年生 大学遠足受け入れのプログラム

遠足受け入れ目的

- 動物と自然を介して学生と学童の交流を深める
- 様々な動物に触れ、感性を磨いてもらう

日時

平成17年10月14日

場所

「学生いこいの広場・ドッグラン」

参加学童

A小学校2年生 114人

ボランティア学生

81名

内容

スタンプラリー形式で動物に関わるブースを
自由にまわってもらった（2時間）



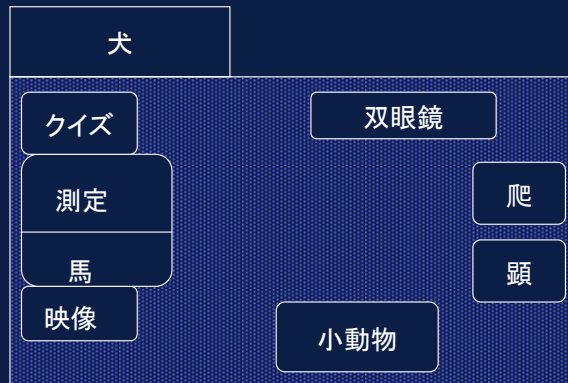
プログラムの、◆目的は、昨年までと同様、動物と自然を介して交流を深めるといことと、様々な動物にふれることで感性を磨いてもらうといことと、10月14日9:45～13:15に行ないました。◆場所は大学内の「学生いこいの広場・ドッグラン」で参加学童は上野原小学校2年生の114人で活動のボランティア学生は81名が当日参加してくれました。内容は写真のようにスタンプラリー形式でテントなどに用意したブースを自由にまわられるようにしました。



ブースのレイアウト

9つのブースを設置

ふれあいのできるブース5つ



● ● ● | 各ブースの説明

犬コーナー

ドッグランで犬の散歩やふれあい
参加犬は9頭



小動物コーナー

ウサギ・ハムスター
スナネズミ・マウス・ニワトリの
ふれあい



各ブースの説明をします。犬コーナーは、☆ドッグランで行い、学生が個人で飼っている犬9頭を用いて散歩やふれあいをしました。☆小動物のコーナーでは、ウサギ・ジャンガリアンハムスター・スナネズミ・マウス・ニワトリのふれあいを行いました。



各ブースの説明

爬虫類・両生類コーナー

ヘビ・カエル
(アオダイショウ・ヒキガエルなど)
ふれあい・展示



映像コーナー

ゴールデンハムスターの
行動・習性映像上映



☆爬虫類・両生類コーナーでは、学生が飼育しているヘビ・カエルの展示とふれあいを行いました。ふれあいにはアオダイショウを使用しました。

☆映像コーナーではゴールデンハムスターがほおぶくろにエサを溜めて巣の中で出す様子を撮影し、上映しました。

● ● ● 各ブースの説明

双眼鏡コーナー

双眼鏡や単眼鏡を用いて、街の様子や野鳥を観察



顕微鏡コーナー

虫や植物など自分で広場周辺で採取した物を観察



☆顕微鏡コーナーは、こちらで用意した昆虫や、学童が広場周辺から採取した虫や植物などを顕微鏡で観察させました。

☆双眼鏡コーナーは、双眼鏡や単眼鏡を用いて野鳥や、大学が高台にあるため学童の住んでいる町の様子小学校などを観察させました。こちらのブースはテントを設置せず、オープンスペースとしました。

● ● ● 各ブースの説明

馬コーナー

- ・フィットネス機器「ジョーバ」体験
- ・ウマクイズ
- ・ウマの餌や糞の観察

動物クイズ

- ・ポスターで動物の福祉について学び、クイズに答える
- ・動物福祉がテーマのすごろく
- ・動物園の環境エンリッチメント遊具の模擬展示



☆馬コーナーはフィットネス機器「ジョーバ」を使用した疑似乗馬体験・ウマに関するクイズ・ウマの餌や糞の観察をさせました。☆動物クイズコーナーではポスターを使用し、動物の福祉についてクイズ形式で学びせました。また、すごろくや、動物園の環境エンリッチメント遊具の模擬展示も行いました。



各ブースの説明

動物測定コーナー

- ・猫・モルモット・人の聴診
- ・人の身長、体重、体温測定
- ・心拍、体温に関するクイズ



動物測定コーナーでは聴診器を使用して猫・モルモット・人の心音を聞かせたり、人の身長・体重・体温測定、心拍・体温に関するクイズを行いました。



動物とのふれあい

魚類を除いた
脊椎動物

▼直接触れ合えるブース

・ 犬 ・ 小動物 ・ 両生爬虫類 ・ 顕微鏡観察 ・ 動物測定



- 子供は、動物への接触に関心が高い(興味がある)



ふれあいのできるブースの子供の興味について検討

● ● ● 解析に用いたデータ

I、学童の行動追跡調査

(対象学童:男子8名・女子8名/計16名)

- 始めの会終了後から終わりの会開始までの3時間連続観察
- 各学童に学生が1人ついてブース滞在時間と移動順番を記録

II、遠足後の学童アンケート

(男子58枚・女子51枚/計109枚)

- 楽しかったと感じたブースを3つ選択させた延べ数
- 遠足の自由感想(文・絵)



III、図工の選択画 (男子63枚・女子51枚/計114枚)

- 図工の授業で、秋のイベント(遠足・運動会・いもほり・おまつり)の中から学童が1つ選択して描いた絵

解析に用いたデータは

1、遠足後の学童アンケート(男子58枚・女子51枚/計109枚)

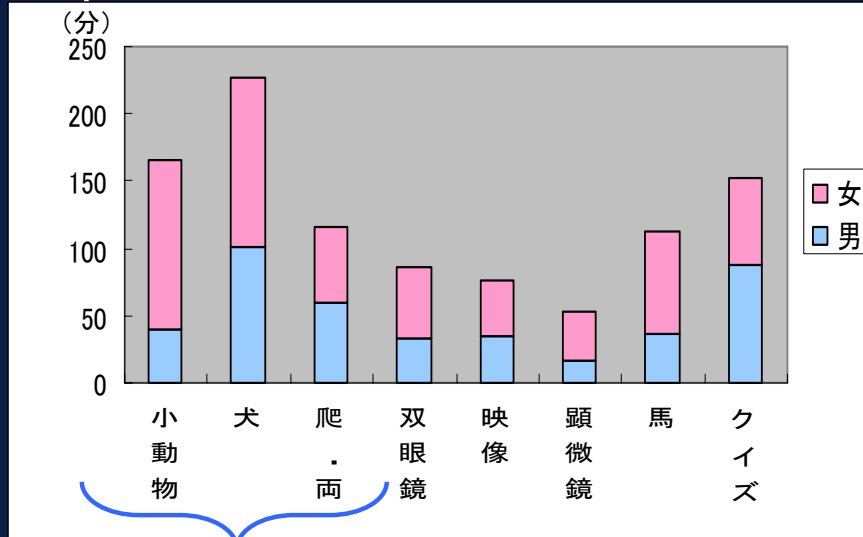
3つ選択した楽しかったブースの延べ数と、遠足の自由感想文(絵)

2、図工の選択画(男子63枚・女子51枚/計114枚)

図工の授業で、秋のイベント(遠足・運動会・いもほり・おまつり)の中から学童が1つ選択して描いた絵

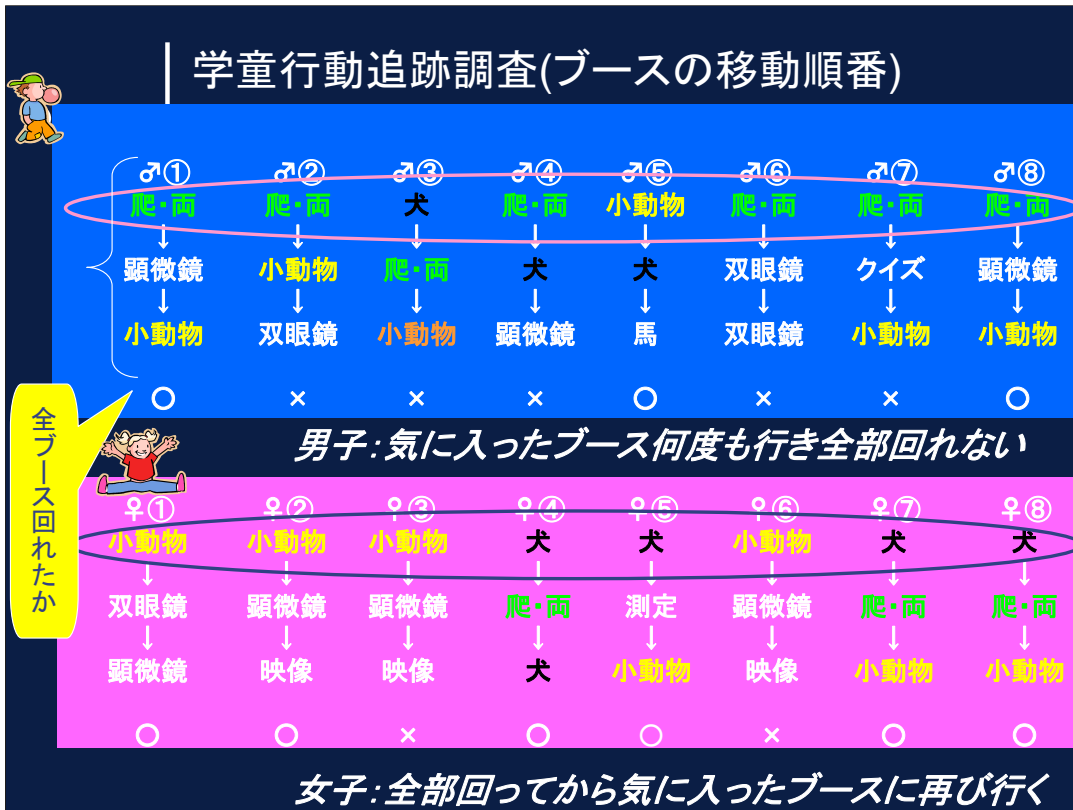
3、学童の行動追跡調査(対象学童:男子8名・女子8名/計16名) 始めの会終了後から終わりの会開始までの3時間連続観察 各学童に学生が1人ついてブース滞在時間と言動記録を解析しました。

学童行動追跡調査 (ブース滞在時間)



直接触れ合えるブース

次に16人の学童行動追跡調査についてです。まずブース滞在時間については、犬がいちばん長く、続いて小動物、クイズが長いという結果になりました。滞在時間では目立った男女差は見られませんでした。



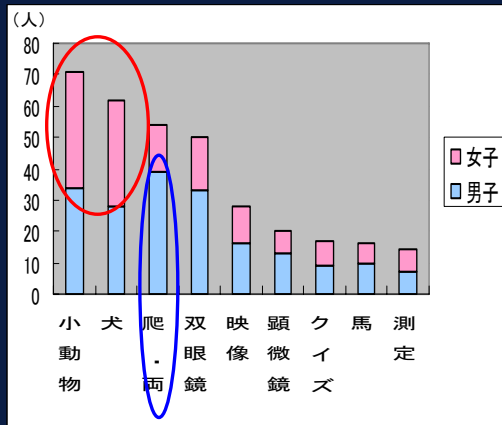
ブースの移動順番のはじめの3つを書き出してみました。上が男子、下が女子になります。

男子は爬虫類・両生類から、女子は犬、小動物から回る様子が多く見られました。行動追跡を行った全ての学童が動物とふれあいができるブースにいちばん最初に行っていました。

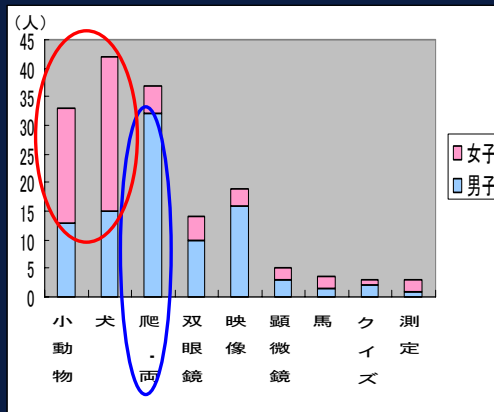
また、女子は全部のブースを回ってから気に入ったブースにもう一度行くという子が多かったのに対し、男子は一度顕微鏡で昆虫の観察をしてから周辺に生き物を探しに行き、また顕微鏡ブースに戻って観察するなど、同じブースに何度も行って全ブース回れない子が多く見られました。

アンケートより

3つ選ばせた「楽しかったブース」
(延べ数)

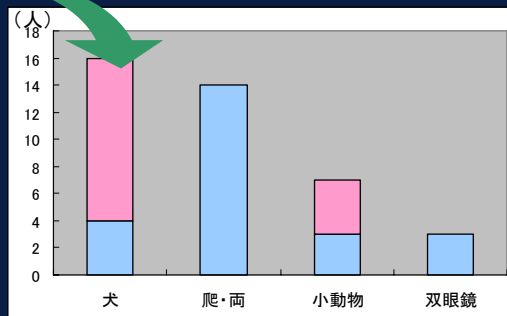
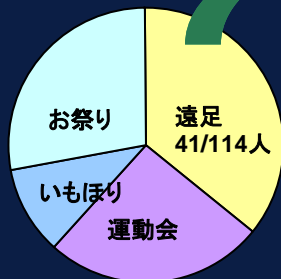


感想文(絵)



アンケートに書かれた感想文や絵でも動物とのふれあいが行われた小動物・犬・爬虫類・両生類のコーナーが多いという結果が出ました。特に男子学童は爬虫類・両生類をテーマとして取り上げた学童が多く、続いて映像、犬、小動物が多く書かれていました。女子は犬を書いた学童が27人、小動物が20人いたのに対して他のブースは1人から5人と少なく、ほとんどの学童が犬と小動物を取り上げていました。

● ● ● 図工の選択画より



どうぶつとのふれあい

絵や文に表す



心に深く刻まれ
強く印象に残った

次に図工の選択画についてです。遠足、運動会、いもほり、お祭りの4つのイベントから、遠足をテーマとして取り上げた学童は114人中41人でした。テーマとして取り上げられたブースは爬虫類・両生類、犬、小動物、双眼鏡の4つのみで、動物とふれあいができるブースが多いことと、双眼鏡は男子学童が多いこと、女子は犬・小動物が多いのは、昨年度と同じでした。また、男子学童はヘビが描かれている絵が多かったです。

● ● ● 結果のまとめ

ブースの滞在時間が長かったのは、直接ふれあいの出来るブース(爬・両, 小動物, 犬)

男子は爬・両から
女子は小動物、犬から
回る傾向

好きなブースに一番最初に行くのではないか

男子は全ブース回れない子が多く、気に入ったブースに何度も行く様子が見られた

男子は女子に比べて時間配分ができず、1つのことに集中しやすい傾向

ブースの滞在時間では男女差が見られなかったことから、学生スタッフが学童に対して一貫した対応ができたといえます。

そして、男子学童は爬虫類・両生類ブースから、女子学童は小動物・犬ブースから回る傾向が見られたことから、学童は自分の好きなブースにいちばん最初に行くということがわかりました。

また、男子学童に全部のブースを回れない子が多く、爬虫類・両生類や顕微鏡ブースなど気に入ったブースに何度も行く様子が見られたことについては、男子学童は女子学童に比べて時間配分が出来ない子が多く、1つのことに集中しやすい傾向があるといえます。



考察



アンケートや、絵などから



直接触れ合えるブースが人気

特に男子には爬虫類・両生類が
一番人気！



男子は
野性味が強い動物
が好き

動物への興味・関心の方向性に男女差が現れている

結果Ⅰ、Ⅱより、動物と直接ふれあうことのできた犬、小動物、爬虫類・両生類のブースが人気がありました。生きた動物と直接ふれあうことは学童が楽しいと感じ、それを絵や言葉で表すのは強く印象に残ったことを意味します。

また、男子児童には特に爬虫類・両生類の人気が高いという結果になりました。

同じ上野原小学校2年生の動物園遠足で学童が選んだ好きな動物でも女子学童がレッサーパンダやマレーグマを選んだのに対し、男子学童にはチーター、ユキヒョウ、サーバル、トラ、ライオンなどが多く選ばれていました。

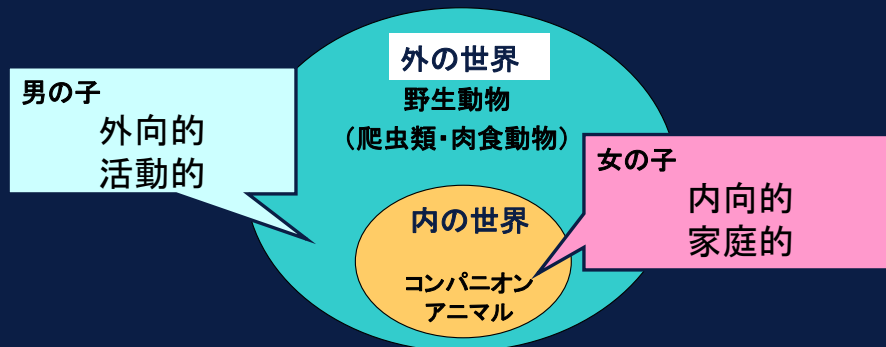
これらのことから、小学校2年生ですでに動物への興味・関心の方向性に男女が現れ、男子学童は肉食動物、キバやツノのある強い動物を好む傾向があることがわかりました。

遊びの好み、「ステレオタイプの遊び」の選択傾向(5才～8才)

例えば・・・

男の子 : 野球、カードゲーム(体を使った活発的な遊び・戦いゲーム)

女の子 : お絵かき、着せ替え人形(家庭的な静的な遊び)



動物種別の興味関心の男女差は先天的なものではないか

次に、男子学童に人気の高かった爬虫類・両生類について、どうして男の子は爬虫類・両生類が好きなのかを遊びの観点から考えてみました。

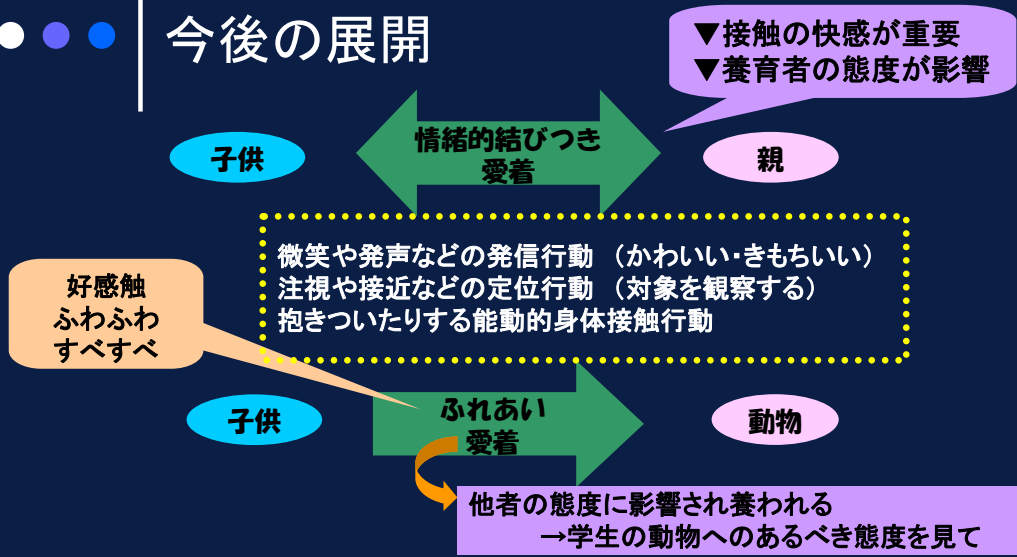
男の子と女の子では遊びに違いが見られます。

子ザルの遊びの研究からも、オスの遊びパターンはメスと比べて活動的であり行動が荒っぽく、無鉄砲で攻撃的な行動が多く見られるのに対して、メスの遊びパターンでは人間の子供がままごとをするように赤ん坊の世話をする様子がよく見られます。

このことから男の子はより外交的で女の子はより内向的であることがわかり、男の子は野生味があり非日常的な生物である爬虫類・両生類に、女の子はコンパニオンアニマルである小動物や犬により興味、関心を示したと考えられます。



今後の展開



愛着は・・・

- ▼自立性を獲得した後も形を変えて存続
- ▼ふれあうことによって形成された愛着は内在化されて愛着対象やイメージを広げていく

情操教育に
動物とのふれあいは
良い



ご清聴
ありがとうございました

